

# 常磐地区市街地再生整備基本計画（素案）に関する市民説明会 要旨

## ■ 日 時

令和4年6月29日（水） 18:00～19:20

## ■ 場 所

常磐公民館 第1会議室



## ■ 会議の流れ

- 1 開 会
- 2 挨拶（いわき市 都市建設部 都市計画課長）
- 3 説 明（常磐地区市街地再生整備基本計画（素案）について）
- 4 質疑応答
- 5 閉 会

## ■ 質疑応答の概要（要旨） ○：参加者 ⇒：事務局

- 令和4年6月1日時点で湯本町の人口は6,281人、そのうち65歳以上の高齢者が2,509人で高齢化率は39.9%、また一人暮らしの独居率も15%と厳しい状況にあります。また、常磐地区全体30,361人に対して10,311人、34%が高齢者となっています。
- 市の第9次高齢者福祉計画にも記載されていますが、閣議決定された「認知症施策推進大綱」というものがあり、共に生きる「共生」と「予防」の取り組みを推進するとされています。
- 数カ月前に、湯本町では、平日は1日千人、休日は2千人の来客があったスーパーが閉店しました。これにより、多くの高齢者が買い物弱者となっています。少し不自由な方でも、自分で歩いて、顔あわせて、あいさつをして、食べたいものを見て買い物する環境は、共生と予防に繋がっていくと考えます。
- 主婦、子供、孫、これからの世代のために、ライフの部分で、道の駅までは無理かもしれませんが、「食」を大事に考え、取り組んでいただきたいと思います。
- 買い物弱者への対応について、民間だけで実施すると赤字になると言われています。やはり官民一体となって推進していく必要があると考えます。
- ⇒ ご意見ありがとうございます。駅前の交流拠点施設は、公共施設の集約と民間収益施設もあわせて複合化していく事業となっています。湯本の活性化の面では、温泉という視点で外からの観光客を増やしていこうという取り組みはありますが、忘れていけないのは、地元の方々の生活利便性の向上につながる機能を導入していくことと認識しています。また、高齢者の方々の足の確保という視点ももって検討を進めていきます。
- 交流拠点については、じょうばん街工房21などの地域団体や行政が話し合いながら、コンセプトという形では整理されてきたかと思えます。
- その中で、これまでの古い公共施設の整理について、機能を駅前に持ってくることでありますが、文化サークル活動などの公民館や市民会館の機能、そこに、関船体育館まで入れてしまうと機能が多すぎるかなと感じています。
- 常磐地区には、21世紀の森公園があり、いわき全体のスポーツのメッカとなっているため、駅前に中途半端なものをつくるのではなく、体育機能は21世紀の森公園に集約す

ることがよいと思います。駅前には、例えば 200 人程度のキャパの小ホールにして、演劇や発表、コンサートなどの多機能ホールにしていただければと思います。

○ 2024 年から、全国自治体持ち回り開催だったサッカーのインターハイが、J ビレッジとグリーンフィールドに固定となりますので、高校生の聖地になってきます。そのため、周辺にグラウンドを整備し、合宿を誘致するなどにより、旧国道と湯本川で分断されていた、湯本駅東側の活性化にもつながってくると思います。

○ 駅前には観光や文化、21 世紀の森公園方面はスポーツといった役割分担とし、最終的に体育機能は、21 世紀の森公園方面へ集約することとしていただければと思います。

⇒ ご意見ありがとうございます。市役所の中では、今後の公共施設の適正なあり方について、体育施設についても、常磐地区のみならず市全体として、そのあり方の検討が同時平行して進められていきます。

⇒ まず、本日はじめてお話を聞く方もいますので、今ある公民館や市民会館、体育館などの施設について、この規模・機能をそのまま駅前を持っていくものではないということをご理解ください。

⇒ 現在の計画素案には多目的施設を記載しています。これは、大規模なスポーツ大会などを開催できるようなものではなく、卓球やバドミントンをやったり、発表会を開催したり、また、ある程度の規模があれば災害時の避難場所としても利用できるようなことを想定し、整理をしてきたところです。具体的な施設機能については、全市的な体育施設のあり方検討の動向もみながら、検討を進めていくこととなります。

○ 基本計画の策定に向けては、行政と地域の方々が協議を重ね、やっとならぬまでたどり着いたものと認識しています。携わってきた皆様に御礼申し上げます。しかし、まだ、行政の考えと、権利者を含めた地域の考えには、若干の不突合があるのかなと感じています。2 点ばかり申し上げます。

○ はじめに、高齢者をはじめとした地域住民が集まれる交通手段、モビリティの確保について、計画へ位置付けをお願いしたいと思います。高齢者の目の前の課題は交通です。免許証もなかなか返せません。障害をお持ちの方、妊産婦、子供たちの足の確保について、せつかくの面整備ですので、公共交通も一緒に考えていくべきと申し上げます。

○ 先進都市では、路線バス、デマンドバス、オンデマンドタクシーなど、新しい交通モードを乗入れ・乗継が出来る、安全な駅前広場としての交通結節点が主流になっています。高齢者の歩行空間の確保と、面整備の中での高齢者の安全な動線計画の検討をお願いします。

○ 二点目についてです。支所や図書館等の公共施設と商業施設の機能の導入には、現存している民間のお店、その方々を含めて面整備が行われますので、市民の営みが見える持続可能なコミュニティ空間をつかって、賑わいを取り戻すような努力をしていただきたいと思います。

○ 公共施設の適正配置の名のもとに、誰も望まない、セメント倉庫のような体育館を建てるようなことはやめていただきたい。少林寺拳法、合気道、柔道、卓球など、現在、公民館で様々な活動が行われており、団体があります。また、ヨガやフランダースなどの普及を大切にしてもらいたいと思います。

⇒ ご意見ありがとうございます。1 点目は、交通の問題です。湯本駅前にはバスやタクシーなどの交通結節点となっています。これからの時代、ひと中心のまちづくりを進める

上でも、常磐地区の皆様が駅前に来ていただけるような、足の確保が求められると認識しています。都市計画課には交通を担当する部署があり、今まさに、地域の交通のあり方の検討を進めているところですので、あわせて湯本駅前の交通機能について検討を進めていきたいと思いをします。

⇒ 次に、市民の営みを大切にしたいというご意見については、観光客という目線も大事にしながらも、お住まいの市民の方々の生活を守っていく、よりよい生活につなげていかなければならない事業だと、我々十分に認識していますので、今後も、皆様とお話し合いをしながら事業を進めていきたいと思いをします。

○ 現在、観光の方の多くは車で来られ、魅力を向上させ電車でも多く来ていただくということかと思いをしますが、その方たちが駅前にある支所に行くのでしょうか。支所を駅前につくる意味がよくわかりません。

○ また、みなさん車で移動すると思うのですが、約 150 台の駐車場で足りるのでしょうか。

⇒ ご意見ありがとうございます。支所機能について、観光客の方々は中々行かないと思いをしますが、支所の中に様々な窓口・機能があり、対応できる部分はあるかと思いをします。また、公共施設を、一つの機能、支所は支所、公民館は公民館という形で作るのではなく、複合化することにより、会議室などの共用できる部分も生まれてきます。この複合化の考え方は、常磐地区だけではなく、全市的な取り組み・考え方となっています。

⇒ 駐車場の台数については、現在の各施設のピーク時の利用台数で設定しています。なお、今後、民間事業者との対話などを経ながら、民間収益施設の具体的な計画が見えてくる中で、必要な駐車台数については再度設定していくことになるものです。